

希望を胸に、防衛大学校を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、5月14日（日）、受験希望者を引率して「防衛大学校オープンキャンパス」へ参加した。

防衛大学校は、神奈川県横須賀市に所在しており、陸海空自衛隊における将来の幹部自衛官を育成する機関である。今回のオープンキャンパスには静岡県内から高校生やその家族等35人が参加した。

記念講堂での概要説明の後、参加者は模擬授業や実験室、学科展示等を自由に見学するとともに、同校の現役学生と触れ合う等充実した時間を過ごした。

更に、全校学生によるパレード訓練を見学し、整齊と一糸乱れぬ隊形で行進する学生の姿を見ると参加者は将来の自分の姿と重ね合わせているように目を輝かせていた。

参加した学生からは「模擬授業は難しい部分もあったが、楽しく体験出来た」「学生と直接話ができて、今後の参考になった」「実際の学校の雰囲気を知り、更に防大に入りたい気持ちが強くなった。一層勉強を頑張りたい」と、それぞれ前向きな感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も受験生の気持ちを第一に、夢の実現に向け積極的なサポートに努めていく。



「下田黒船祭」の艦艇公開に2761人が集う

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、5月20日（土）と21日（日）の2日間、「第78回下田市黒船祭」のため下田港に入港した掃海艇「はつしま」の一般公開を支援した。両日とも天候に恵まれ、朝9時からの一般公開には多くの人が普段目にする事のない掃海艇を一目見ようと列をつくり、2日間で「はつしま」就役以来過去最多の、3761人もの見学者が訪れた。見学者は掃海艇に乗艇すると、海中の機雷や不発弾を除去するための設備や装備に一樣に目を輝かせる等大きな関心を抱いた様子であった。

また、21日には地元の高中生15人が訪れ、初めに同艇の広報係士官が掃海艇の概要説明を行い、その後甲板や艦橋、任務で普段使用する装備品等を見学した。海上自衛隊の艦艇に初めて触れた学生たちは、興味深く乗員の説明に耳を傾けるとともに、手旗信号の体験やラッパ吹奏の見学を楽しみながら、乗員や学生同士で記念写真を撮っていた。

静岡地本は、今後も地域との連携を大切にしながら、本物を見られる機会を活用して、地元住民や若者等の自衛隊に対する理解促進に努めていく。

